

松下国際財団 研究助成

研究報告

【氏名】神田真紀子

【所属】(助成決定時) 東京大学大学院

【研究題目】カンボジア越僑の軌跡—帰郷者の越境をめぐる歴史的考察

【研究の内容・方法】

助成期間前半は、同会への再コンタクト、文書資料の発掘、雑誌、クラブの新聞記事の収集、ならびに受付窓口になる同会代表者との連絡に費やした。相次ぐ幹部の逝去と活動の弱体化、予算不足から現在クラブの活動は縮小し、他界した故主任グエン・ヤー・ダン氏、故副主任チャン・ヤン・キエム氏が主導したような、強い求心力をもった幹部組織を維持できなくなった。さらに高齢化した幹部方との接触は、おりしも新型インフルエンザの国際的猛威によって大幅に阻まれた。そのため、許可申請内容も含め限られた面会の中で、できるだけ回想文書資料を収集する方向でご協力いただくこととなった。幸いに同会の連絡事務をあずかるリュウ・ユイ・タン氏の献身的な連絡と協力をいただき、前団体から現在に至るまでの出版物のほか、クラブも執筆したホーチミン市海外ベトナム人委員会の出版物、会員の回想同人誌も入手することができた。また広く意見を仰ぐ構えで、社会科学院東南アジア研究所所長のほか、在外の越僑研究者、在カンボジア越僑会、他専門家にも意見を伺った。後半期には現主任ファム・ファイ・ニャー氏との電話面会、教員生徒のOB会幹事を務める、ファム・スアン・ファイ氏と面会が実現した。また同時期南部国营テレビ局HTVが、CLB成員も対象とする抗米戦争期の愛国青年達のドキュメンタリーフィルムを作成しており、タイン氏の尽力でディレクター、グエン・ホアン氏と面会した。面会時には、同フィルムに資料提供を行っているタイン氏のほか、ホーチミン市4区人民委員会委員長も同席、クラブの歴史的価値を伺った。また、同クラブは目下タイニン省国境地域の歴史遺跡区にカンボジア烈士の記念碑を建設中であり、期間中に訪問を行った。

【結論・考察】

各国の在外ベトナム人(越僑)に対して、クラブに所属するカンボジア越僑帰郷者は、二つのインドシナ戦争を通じ国家犠牲につくした「愛国」越僑であったことが、クラブ成員の強いアイデンティティであり、各国の他の越僑の傾向とは著しく異なる性格を持っている。国史に位置づけることのできる明らかな歴史的立場を成員集団が持つため、回想録、クラブ出版物などベトナム国内で文書資料を残すことが可能であった。同会会員の高齢化が進み、指導力の高かった全主任、副主任の逝去後は積極的な活動は縮小している。一方で現在は愛国越僑の慰霊碑建設など、越僑の活動が、過去の回顧から記念碑へと歴史化の作業へシフトしている過渡期にあるといえる。南部の新聞記事などで、同会の活動を紹介されるほかは、同会の活動は北部を始め全国的に知られていない。そのため、ベトナムにおけるカンボジア研究の中心である、社会科学院東南アジア研究所のカンボジア専門家の意見を仰ぎ、同会を紹介する記事を研究雑誌に投稿する予定でいる。